

＝歴史と哲学の県立熊谷図書館＝資料案内

ライ ブ ・ レ タ ー



Lib. Letter

2011 Autumn [9～11月] 季刊

平成23年9月1日 通巻 第25号

編集・発行 埼玉県立熊谷図書館



埼玉県

埼玉県のマスコットコハトン

<https://www.lib.pref.saitama.jp/> Tel 048-523-6291

～秩父事件とは～

今から127年前に起こった「秩父事件」のことを、みなさんはどのくらいご存じでしょうか。秩父に遊びに行ったことがある人は少なくないと思いますが、秩父で起こった100年と少し前のことなのに、「聞いたことはあるけれどよくわからない」人が実は多いのではないのでしょうか。

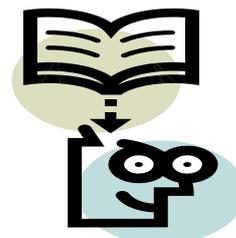
今回は改めて秩父事件とは何だったのかを、県立図書館の所蔵資料から振り返ります。

■ 事件の概要

まず、秩父事件とはどんな事件だったのでしょうか。

ここでは、図書館で質問を受けた際まず引いてみる

『国史大辞典』から一部引用し、事件の概要を紹介します。



明治十七年（1884年）埼玉県秩父郡に起り、群馬・長野県の隣接地に波及した大規模な農民蜂起。現在裁判記録は四千三百九十三名分残り、欠席裁判をふくめて死刑十一名に及び、農民の戦死者は二十五名になっている。

この時期の日本社会は経済的社会的動揺期にさしかかっていた。一般的状況としては明治十六年から始まる世界恐慌の影響を受けて、当時全輸出高の六、七〇%を占める生糸輸出が減少して、特に養蚕一生糸生産地帯の農村の窮乏化を促進した。国内経済としては、明治十四年の政変によって大隈重信に代わって財政政策の中心人物となった松方正義は前任者の紙幣整理を続行し、兌換制度を樹立しようとする一方、地方交付金削減、軍備拡張を行なった。このデフレ政策は物価・金利の低落を招き、金融機関の未発達は民衆生活を不況のどん底におとしいれた。都市と農村とを問わず民衆は生活維持のため高利貸業者のもとに走り、ために生活金融の需給関係から金利は高騰し、全国の破産（身代限り）件数も急増した。ここに明治十六、七年の農民騒擾は負債返済延期、金利引下げのほか、納税の延期、小作料の減免を要求するものであったが、明治十七年になると生糸生産地帯においては輸出の減退に伴う農民の窮乏化がますます激しく進行し、負債農民を中心とする運動が激化していった。

秩父においてこの農民集団は困民党と呼ばれ、山県内務卿が朝議で「暴徒ノ首魁タル者ハ自由黨員又ハ博徒及三百代言ノ輩ナリ」と報告するように、秩父自由党と密接に結合していた。ここに困民党は借金十年据置と四十年賦返済のほか、学校費の廃止、村費減少、雑収税の減少をあげ、高利貸のみでなく村から県、内務省への要求をかかげ、実力蜂起が計画されていた。

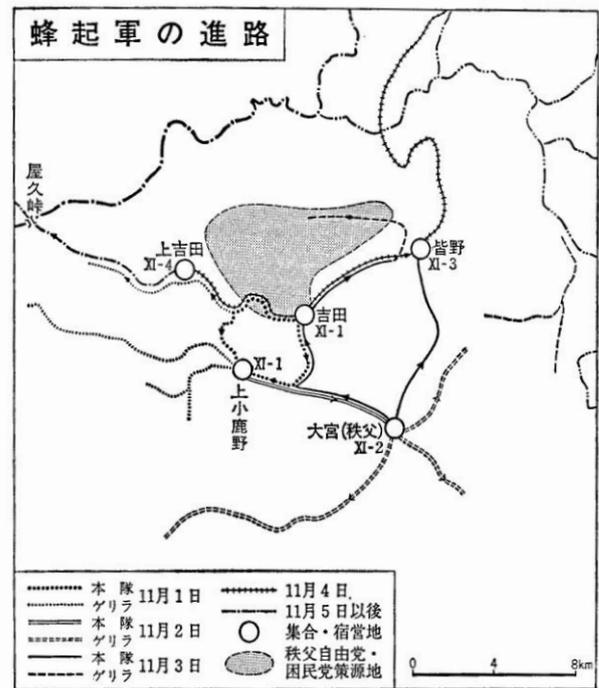
明治十七年十月二十六日、秩父郡下吉田村（現秩父市）栗野（あのを）山の会議で十一月一日が蜂起の日と決定されたが、郡東部の風布（ふつぶ）村（現長瀬町・大里郡寄居町）は十月三十日に武装蜂起し、その夜高利貸会社を攻撃した。

十一月一日、吉田棕神社が結集地であったが、困民は午前中警官隊と衝突し、両者に死者を出した。幹部は神社において総理田代栄助、副総理加藤織平、参謀長菊池貫平、会計長井上传蔵などのほか、甲乙の正副大隊長、町村別の小隊長など数十名に及ぶ役割表を作り、軍律五ヶ条を定めた。

一日の夜、下吉田村から二手に分かれて小鹿野町に侵入し、数軒の高利貸に焼打ち、打ちこわしをかける一方、役場の奥印帳を焼却した。二日、約三千名の集団は荒川を越えて大宮郷（現秩父市）に侵入した。郡役所を本陣と定め、数軒の高利貸を攻撃し、約三千円の軍資金を強借し、受領証のうちには革命本部と書いたものがある。

三日午後一手は皆野村に進出して荒川をはさんで憲兵と銃撃戦を交え、一方、赤平川に沿って北上する加藤織平の一隊は秩父北部の山間地帯に遊撃隊を分遣し、この隊は翌日群馬官憲隊をおそって警部補を殺した。三日から四日にかけて警官・憲兵・鎮台兵は秩父から平地への諸口に配置され、大宮では自警団が結成され、四日午後新井周三郎が傷つけられる事件も起り、田代をはじめ幹部数名は本部を離脱逃走したが、その時、分遣隊は戦意を失わず、夜に入り児玉郡に突出した五百名は鎮台兵に撃破されて戦死者十名を出した。

菊池貫平・坂本宗作の率いる百二十名は、五日、秩父の峠を越えて群馬県山中谷（神流川流域）に侵入し、途中農民を加えて七日十石峠を越えて長野県に入り、五百余名を動員し、九日未明、南佐久郡穂積村東馬流（小海町）に宿泊中警官隊と高崎鎮台兵の攻撃を受けて、十三名の戦死者を出して敗走し、八ヶ岳山麓の野辺山高原においてついに解体した。これが十日間続いた困民党蜂起の最後であった。（一部省略、編集あり。）



『秩父事件』井上幸治著
中央公論社 1968 より

【参考資料】

- ・ S206/㊦ 『秩父事件史料集成全6巻、索引』 井上幸治・色川大吉・山田昭次編 二玄社 1984
- ・ S206/イ 『秩父事件 中公新書161』 井上幸治著 中央公論社 1968
- ・ S206/エ 『秩父騒動』 江袋文男著 秩父新聞社 1950

■なぜ、「暴徒」扱いされたのか

当時の新聞や板垣退助が『自由党史』や記録では「暴動」「暴民」「暴徒」という表現が使われています。代表的なものをいくつかあげてみます。

・『朝野新聞』

明治十七年十一月四日第一報では「人民」「貧民」となっているが、五日以降では前述の表現に加えて「暴民」「暴徒」という表現に変わっている。

・『自由党史（岩波文庫）』板垣退助 監修

「不平の農民、博徒、獵夫の類なるが故に、其勢を得て為す所、多くは官衙を毀ち、吏員を脅すの外、證書地券を焼棄し、高利貸、地主を征誅し、金品を略奪分配し、平生直接の不平を洩すを先にするの傾あり。称して借金党、小作党と云い、実是一種恐るべき社会主義的の性質を帯べるを見る。」

・『秩父暴動雑録』田中千弥著 *『秩父事件史料第2巻』にも収録されている。

「暴徒潰散の後に至り、警察官吏は郡中一般皆暴徒なり」

【参考文献】

・B315/U26『自由党史 下（岩波文庫）』宇田友猪ほか編纂 岩波書店 1958

・S206/々『田中千弥日記』田中千弥著 埼玉新聞社出版局 1977

・S206/イ『自由自治元年 秩父事件資料・論文と解説』井出孫六編著 現代史出版会 1975

事件後、関係者の処分は過酷を極め、有罪約四千名、重罪三百名にも及び、首謀者田代栄助（困民党総理）、加藤織平（困民党副総理）、新井周三郎（甲大隊長）、高岸善吉（小隊長）など幹部七名が死刑判決を受けました。

（参謀長菊池貫平、会計長井上傳蔵は欠席裁判で死刑判決）

刑が執行された後も有形無形の弾圧は続き、「暴動、放火、強盗」という「秩父暴動」の虚像が作られていきました。

（『秩父風 秩父事件と井上傳蔵』小池喜孝著 現代史出版 より）

■事件の再評価への動き

（1）井上傳蔵の告白から

大正七年六月二十四日、事件後逃亡生活を続けていた会計長井上傳蔵は逃亡先の北海道で亡くなりました。伝蔵は「伊藤房次郎」と偽名を使い、籍こそ入れなかったものの妻子をもち、暮らしていました。亡くなる直前、家族に「井上傳蔵である。」と告白し、新聞記者に秩父事件の真相を語りました。その述懐は、大正七年七月四日から八月二日まで『釧路新聞』に掲載され、大きな反響をよびました。

（2）戦前～戦後の秩父事件研究

昭和三年十月号の『改造』に堺利彦が「秩父騒動」を、昭和八年十二月号の『歴史科学』に平野義太郎が「秩父暴動—その資料と検討」を著しました。

特に后者では、秩父事件を「資本の本源的蓄積過程に激化せられた、革命的小農民の運動の頂点」とし、「特筆すべきことは、この秩父暴動は、軍事的組織と戦時規律をもったことであった」としています。

この2つの論文を、井出孫六氏はその著作『自由自治元年』（現代史出版会）で、「画期的な二つの論文」と評して紹介しています。

戦後、昭和二十年代から三十年代にかけての研究をふまえ、総括的に秩父事件を描いた

ものに、井上幸治氏の『秩父事件』（中公新書）があります。

ほかにも、江袋文男氏の『秩父騒動』、小池喜孝氏の『秩父嵐 秩父事件と井上传蔵』、中沢市朗氏の『自由民権の民衆像 秩父困民党の農民たち』など秩父事件の研究資料が多数出版されています。

また、昭和四十五年（1970年）には埼玉新聞社が埼玉百年を記念して作成した埼玉県行政文書（『秩父暴動始末』『秩父暴徒関係書類』をまとめた『秩父事件史料全3巻、補巻』、その後、秩父事件100周年の年、昭和五十九年（1984年）には埼玉県の文書以外の各県庁、裁判所関係史料を含めた文書、新聞など関係資料を集約した『秩父事件史料集成』も刊行されました。

（3）顕彰活動の動き

研究が進むにつれ、秩父事件遺族会や秩父事件顕彰実行委員会などが発足し、事件の真実の姿を知ってもらおうと様々な活動を始めました。

主だった活動としては、事件についての記念集会や講座の開催、会報誌や出版物の刊行、記念碑の建立が行われています。

【主だった記念集会】

昭和三十年十一月二十一日（1954年）	秩父騒動七十周年記念講演会と映画の夕べ
昭和四十年十一月二十三日（1965年）	秩父事件八十周年記念 演劇「野火」上演
昭和四十九年十一月三日（1974年）	秩父事件九十周年記念集会
昭和五十四年十月二十八日（1979年）	秩父事件九十五周年記念集会
昭和五十九年十一月四日（1984年）	秩父事件百周年記念集会

その後、事件百二十年記念として、2004年に井上传蔵を主役に秩父事件を描いた映画「草の乱」が公開されました。総制作費4億5千万円、8千人のボランティア協力という壮大なスケールで作られ、大きな話題を呼びました。事件の地、吉田町にセットが組み立てられ、現在も一部のセットは残され、公開されています。



秩父事件資料館・井上传蔵邸
(秩父市)

県立図書館では秩父事件について様々な資料を所蔵しています。
これを機会に今まで知らなかった「秩父事件」に触れてみませんか。

より詳しく知りたい方へ

～県立図書館にある今回の展示資料～

※『書名』著者名 発行者 出版年 所蔵館【県立図書館の請求記号】

※以下に掲載した資料は、県立熊谷図書館2階ロビーで11月24日まで展示中です。



(秩父事件)

- 『幻の革命 秩父事件顛末記』浅見好夫／著 1975 浦熊久【S206/ア】
- 『“秩父事件”研究近況』色川大吉／著 [埼玉県立浦和図書館(製作)] [1988] 浦【S206/イ】
- 『16年騒擾から群馬・秩父事件へ』岩根承成／著 [埼玉県立浦和図書館(製作)] [1988] 浦【S206/イ】
- 『近代史像の模索 フランス革命と秩父事件』井上幸治／著 柏書房 1976 浦熊久【S206/イ】
- 『自由自治元年 秩父事件資料・論文と解説』井出孫六／編著 現代史出版会 1975 浦熊久【S206/イ】
- 『秩父事件 自由民権期の農民蜂起』井上幸治／著 中央公論社 1968 浦熊久【S206/イ】
- 『暴徒 現代と秩父事件』井出孫六／ほか述 同志社大学アッセンブリ出版会 1976 浦熊久【S206/イ】
- 『秩父事件とその周辺』秩父事件95周年 浦和市立図書館／編 浦和市立図書館 1979 浦【S206/ウ】
- 『絵史・秩父事件』森哲郎／著 鳥影社 1984 熊【S206/エ】
- 『女たちの秩父事件』五十嵐睦子／〔ほか〕著 新人物往来社 1984.9 浦熊久【S206/オ】
- 『おそれながら天朝様に敵対するから加勢しろ！ 秩父事件を歩く』
筒井作蔵／著 街と暮らし社 2010 浦【S206/オ】
- 『完本秩父事件』井上幸治／著 藤原書店 1994 浦熊久【S206/カ】
- 『群馬・秩父事件史跡を行く』[埼玉県立浦和図書館(製作)] [1988] 浦【S206/ク】
- 『困民党の道 秩父事件百年』[埼玉県立浦和図書館(製作)] [1988] 浦【S206/コ】
- 『秩父風 秩父事件と井上传蔵』小池喜孝／著 現代史出版会 1974 浦熊久【S206/コ】
- 『裁かれる日々 秩父事件と明治の裁判』春田国男／著 日本評論社 1985 浦熊久【S206/ク】
- 『野に祈る 写真集 秩父事件と北海道』
北海道歴史教育者協議会／編 北海道歴史教育者協議会 1975 浦久【S206/ク】
- 『資料展秩父事件 展示目録』埼玉県立浦和図書館／編 埼玉県立浦和図書館 1987 浦熊久【S206/ク】
- 『写真でみる秩父事件』井上光三郎／著 新人物往来社 1982 浦熊久【S206/ク】
- 『秩父悲歌 秩父事件の心と風土』清水武甲／著 春秋社 1976 浦熊久【S206/ク】
- 『「自由民権運動」関係文献目録・「秩父事件」関係文献目録』
[埼玉県立熊谷図書館(製作)] [1980] 浦熊【S206/ク】
- 『自由の雄叫び 自由民権運動と秩父事件』
秩父事件百周年顕彰委員会／編 ほおずき書籍 1985 浦熊久【S206/ク】
- 『地鳴り山鳴り 民衆のたたかい三〇〇年』
国立歴史民俗博物館／編 国立歴史民俗博物館 2001 浦熊【S206/ク】
- 『新説・秩父事件』米長保／著 2002 浦熊久【S206/ク】
- 『自由民権と秩父事件』鈴木安蔵／著 [埼玉県立浦和図書館(製作)] [1988] 浦【S206/ク】
- 『[秩父事件資料] 1』秩父事件遺族会 [刊年不明] 浦【S206/ク】
- 『「秩父事件」関係資料』出版流通研究会／編 [埼玉県立熊谷図書館(製作)] [1980] 浦熊【S206/ク】
- 『秩父困民軍の人と闘い 秩父事件を歩く』戸井昌造／著 新人物往来社 1980 浦熊久【S206/ク】
- 『秩父困民軍の戦いと最期 秩父事件を歩く 第三部』戸井昌造／著 新人物往来社 1982 浦熊久【S206/ク】

- 『秩父事件 吉田町石間を中心として』古林安雄／著 古林 安雄 1981 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件 子孫からの報告』高野壽夫／著 木馬社 1981 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件 震源地からの証言』新井佐次郎／著 新人物往来社 1979 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件 秩父事件遺族会機関誌 創刊号』秩父事件遺族会 1980 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件 秩父事件遺族会機関誌 第2号』秩父事件遺族会／編 秩父事件遺族会 1981 浦熊【S206/㊦】
- 『秩父事件 秩父事件遺族会機関誌 第3号』秩父事件遺族会／編 秩父事件遺族会 1981 浦熊【S206/㊦】
- 『秩父事件 秩父事件遺族会機関誌 第4号』秩父事件遺族会／編 秩父事件遺族会 1983 浦熊【S206/㊦】
- 『秩父事件 秩父事件遺族会機関誌 別冊』秩父事件遺族会／編 秩父事件遺族会 1981 浦熊【S206/㊦】
- 『秩父事件』八切止夫／著 日本シェル出版 1978 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件〈佐久戦争〉を行く』上条宏之／編著 銀河書 1984 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件ガイドブック』秩父事件研究顕彰協議会／編 新日本出版社 1992 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件とパリ・コミュニケーション』A. コルベジエ／著 風響社 1995 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件の妻たち』新井佐次郎／著 東京書籍 1984 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件を歩く 困民党の風土と人』戸井昌造／著 新人物往来社 1978 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件教育関係史料 明治16年～17年』秩父事件遺族会 1990 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件研究顕彰 no. 5』秩父事件研究顕彰協議会／編 秩父事件研究顕彰協議会 1987 熊浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件史』浅見好夫／著 言叢社 1990 熊浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件史料 1』埼玉新聞社出版部／編 埼玉新聞社出版部 1970 熊浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件史料 2』埼玉新聞社出版部／編 埼玉新聞社出版部 1972 熊浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件史料 3』埼玉新聞社出版局／編 埼玉新聞社出版局 1976 熊浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件史料 4』埼玉新聞社出版局／編 埼玉新聞社出版局 1977 熊浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件史料 5』埼玉新聞社出版局／編 埼玉新聞社出版局 1978 熊浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件史料 補訂』埼玉新聞社出版局／編 埼玉新聞社出版局 1979 熊浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件史料集成 1』井上幸治／〔ほか〕編 二玄社 1984 熊浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件史料集成 2』井上幸治／〔ほか〕編 二玄社 1984 熊浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件史料集成 3』井上幸治／〔ほか〕編 二玄社 1984 熊浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件史料集成 4』井上幸治／〔ほか〕編 二玄社 1986 熊浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件史料集成 5』井上幸治／〔ほか〕編 二玄社 1988 熊浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件史料集成 6』井上幸治／〔ほか〕編 二玄社 1989 熊浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件史料集成 索引』井上幸治／〔ほか〕編 二玄社 1989 浦熊【S206/㊦】
- 『秩父事件探索』中沢市朗／著 新日本出版社 1984 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件百年 自由民権関係図書目録』鯨岡久／編集 地方・小出版流通センター 1984 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件百年』秩父事件百年記念事業実行委員会／編 秩父事件百年記念事業実行委員会 1984 浦熊【S206/㊦】
- 『秩父事件百年記録・報告集』秩父事件百年記念事業実行委員会／共編 秩父文化の会 1985 浦久【S206/㊦】
- 『秩父事件文献総覧』埼玉県／編 埼玉県 1987 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件目撃者の口説』秩父市立民俗博物館／編 吉田町教育委員会 1980 浦熊久【S206/㊦】
- 『民衆大学秩父事件〈佐久戦争〉八千穂夏期大学実行委員会／編 銀河書房 1984 浦熊久【S206/㊦】
- 『秩父事件と西南上州』新井廣司／著 煥乎堂 1997 浦熊【S206/㊦】
- 『「秩父事件遺族会」に参加して』鶴巻孝雄／著〔埼玉県立浦和図書館（製作）〕〔1988〕浦【S206/㊦】
- 『ガイドブック秩父事件』利根川洋治／著 利根川 洋治 1986 浦【S206/㊦】
- 『火の種蒔き 1884年秩父事件』A. コルベジエ／著 あかし書房 1983 浦熊久【S206/㊦】
- 『120年の時空を超えて秩父事件が問いかけるもの 秩父事件コンパクトガイド』
日本機関紙協会埼玉県本部 2004 浦【S206/㊦】

- 『民衆史を探る 秩父事件関係文献目録』北本市立中央図書館／編 北本市立中央図書館
1984 浦熊久【S206/ミ】
- 『民衆蜂起と祭り 秩父事件と伝統文化』森山軍治郎／著 筑摩書房 1981 浦熊久【S206/ミ】
- 『武蔵の山河に生きた人びと 徳丸一揆、竹橋・秩父事件と東京遺跡物語』
野村正太郎／著 昭和出版 1985 浦熊久【S206/ム】
- 『劇画・秩父事件』森哲郎／著 出版工房 1976 浦熊【S206/モ】
- 『花の秩父事件』八切止夫／著 日本シェル出版 1977 浦【S206/ヤ】
- 『秩父事件と其前後』自由党事件史 油井熊蔵／著 汗牛充棟閣 1935 浦熊【S206/コ】
- 『秩父事件 歴史紀行』中沢市朗／著 新日本出版社 1991 浦熊【S206/ル】
- 『連作『秩父事件』絵はがき』根岸君夫／〔著〕全国教研埼玉実行委員会〔1991〕浦熊久【S206/ル】
- 『私の秩父事件』〔埼玉県立浦和図書館（製作）〕〔1988〕浦【S206/ワ】
- 『〔秩父事件資料〕2』秩父事件遺族会〔刊年不明〕浦【S207/フ】
- 『秩父ふるさと風土図』飯野頼治／著 有峰書店新社 1982 浦熊久【S240/フ】
- 『山間農村の秩父事件 太田部村の経済構造と社会的人間関係を中心として』
岩田泰治／著 まつやま書房 1995 熊【S249/サ】
- 『皆野町誌 資料編 3 中近世文書・秩父事件史料』
皆野町誌編集委員会／編 皆野町 1981 浦熊久【S249/ミ】
- 『井上传蔵 秩父事件と俳句』中嶋幸三／著 邑書林 2000 浦熊【S289/イ】
- 『鎮魂秩父事件 祖父田代栄助の霊に捧ぐ』小泉忠孝／著 まつやま書房 1984 浦熊久【S289/タ】
- 『秩父学入門』高田誠／〔ほか〕著 さきたま出版 1985 浦熊久【S294/フ】
- 『ちちぶ学セミナー専門講座レポート集』秩父市歴史文化伝承館 2005 浦熊【S379.4/フ】
- 『都市文化財研究発表 昭和51年度』
吉田町教育委員会（埼玉県）吉田町教育委員会（埼玉県）1976 浦熊久【S384.1/エ】
- 『秩父事件連作画集』根岸君夫／著 光陽出版社 1997 浦熊【S723/ホ】
- 『峠の叫び 秩父事件の風土と群像 羽田信彌連作版画集』羽田信彌／〔画〕光陽出版社 2002 浦【S733/ト】
- 『秩父事件いろはかるた』御園書房 1988 浦熊久【S797/フ】
- 『影 金子直一小説集』金子直一／著〔金子直一〕1986 浦【S930/カ】
- 『秩父事件の女たち』保高みさ子／著 講談社 1987 浦熊【S930/フ】
- 『秩父事件小説集』新井佐次郎／著 まつやま書房 1981 熊浦久【S930/フ】
- 『炎の谷 秩父事件始末記』下山二郎／著 国書刊行会 1984 浦熊久【S930/ホ】
- 『秩父事件の妻たち』新井佐次郎／著 東京書籍 1984 熊【210.6/フ】
- 『明治史研究叢書 第3集 自由民権運動』明治史料研究連絡会／編 御茶の水書房 1977 熊【210.6/メ】
- 『自由民権運動と現代 自由民権百年第二回全国集会報告集』
自由民権百年全国集会実行委員会／編 三省堂 1985 熊【210.63/シ】
- 『幻の革命』秩父事件顛末記 浅見好夫／著 埼玉新聞社 1975 熊【210.63/マ】
- 『秩父事件 ガイドブック』秩父事件研究顕彰協議会／編 新日本出版社 1999 熊【210.635/フ】
- 『掘る 北海道の民衆史掘りおこし運動』北海道歴史教育者協議会／編 あゆみ出版 1977 熊【211/ホ】
- 『峠をあるく 歴史紀行』井出孫六／著 筑摩書房 1979 熊【291.09/ト】
- 『獄窓の自由民権者たち 北海道集治監の設置』供野外吉／著 みやま書房 1972 浦【363/To62】
- 『秩父事件〈佐久戦争〉を行く』上条宏之／編 銀河書房 1984 熊【BM20】

【映画「草の乱」関連資料】

DVD『草の乱』 秩父事件120周年記念作品

神山征二郎／監督 緒方直人／主演 日活 118分 2004年公開 欠【994/ㇿ】

「草の乱<シナリオ完全版>」(『シネ・フロント2004年8月号』)

【雑誌】

『エコノミスト』(2004年10月26日号)

『キネマ旬報』(2004年9月下旬号)

『埼玉研究』(第20号)

『埼玉地方史』(第17号)

『埼玉の歴史教育』(第4号、第11号、第12号、第14号)

『埼玉民衆史研究』(創刊号～7号)

『シネフロント』(2004年1月号、2004年8月号、2005年1月号)

『社会科研究』(第20～第25号)

『秩父民俗』(第13～15号)

『一橋論叢』(第70巻第3号(通巻395号))

『文芸秩父』(12号(1975年夏季号))

『立正大学地域研究センター年報』(第17号(1993年))

『立正大学北埼玉地域研究センター年報』(創刊号(昭和52年)、第6号(昭和57年))

『歴史地理教育』(2004年4月号、2006年4月号)

【WEBサイト】

- ・ (社)秩父観光協会吉田支部 歴史(秩父事件)<http://www.ryusei.biz/history/history.html>
- ・ 秩父事件研究顕彰協議会 <http://chichibuziken.web.infoseek.co.jp/>



彩の国さいたま

※上記以外にも、県立図書館では秩父事件に関する資料を所蔵しております。貸出や所蔵についてのお問い合わせ、ご希望の資料がございましたら、お気軽にお問い合わせください。